

#6 六日目のこと

昼過ぎ頃……

父1と父2が祭壇の部屋の隅に移動……父3は押入れの中から半分出た状態……父4は半開きの口にタバコを銜えてウクレレ手にしたまま……「ぬけがら」。

ベッドには露わな姿をタオルケットで隠して顔だけ出してる女2がいる。

男 ……

女2 ……申し訳ございません。

男 いえ。

男、シャツがうす汚れている。

女2 あのですね、本日伺いましたのは先日チラっとお話しました介護付きマンションウヒヒッ……マンションの……件でヒヤッヒヤッウヒッ（くすぶったのだ）。

男 あ、着替えさせてもらっていいですか。

女2 はい、私のほうはいっこうに構いませんです。

女2の後ろから父5、顔だけ出す。

父5 もう帰って来ないと思ってたからさあ。

男 ……

父5 あせつちやつたよお、なあ。

女2 いえ、その……まあ……

男 悪かった、お楽しみどころ。

父5 ホントだよお、チャイム鳴らしてくれりゃパンツくらい穿く猶予あったのに、なあ。

女2 いえ、その……まあ……

男 （服着替えている）

父5 あ、代わる？

男 俯を。

父 5 ねえ、ついでにあの人の相手もしてやってくんない？

女 2 いえ、その……まあ……

父 5 嫌だよな、やつぱり。

女 2 ええ……あ、でも鈴木様のことが嫌だとかそういう

男 いやいや……僕はいいですから。

父 5 俺さ、気になってさ……あんたが出てった後、やつぱり後味悪いってのかな、

俺もはしやき過ぎたよなあって深く反省してね。

男 反省してる体勢じゃないよね、それ。

父 5 これはさ、何て言うの？ 成り行きで……なあ。

女 2 いえ、その……まあ……

父 5 どこ行つてたの、この二日間……美津子ちゃんどこ？

男 まさか。

父 5 だよな。

男 海見てきた。

父 5 海？

男 港に大きい船が留まつた、ブラジルの船だった。

父 5 ブラジル？ 行くの？

男 そんな金ない。

父 5 海ねえ、でもやつぱり傷ついた時には日本海だよ。

女 2 冬じゃないと。

父 5 ああ、そりやそうか……で、海見てどうしたの。

男 どうもしない。

父 5 寝泊りは？

男 公園。

父 5 帰つて来れば良かったのに。

男 だから、帰つて来た。

父 5 飯、食った？

男 金がない。

父 5 バナナあるよ、冷蔵庫の上。

男 ありがとう……

男、バナナを取りに行く。

父 5 あのだ、申し訳ないんだけど、この子の下着取ってもらえる？

男 え。

父 5 そっちの部屋に散らばってると思うんだけど……あ、ついでに俺のパンツも。

男、バナナと一緒に持ってくる。

女 2 誠に申し訳ございません……

二人、タオルケットに包まってモソモソ下着を装着。
男、バナナを頼張る。

男 よく考えたら、ホームレスなんだな……俺。

父 5 え？

男 帰るところもなくなってる。

父 5 ここがあんたの家じゃない。

男 他人の家みたいだ。

父 5 実は俺も馴染みがなくてね、ここ……違うところ住んでたから。

女 2 あの……

男 え？

女 2 制服もお願いできますか……そこに……

男 ああ……どうぞ……目えつむつてますから。

女 2、いそいそと制服を着る。

父 5 ひとつ頼みがあるんだけど……

男 頼み？

父 5 判押してやってくれないかなあ。

男 ああ、送られてきたの。

父 5 え？

男 美津子から。

父 5 ああ、あれね……あれは祭壇の上に置いといたけど……そうじゃなくてさ、久恵ちゃんがね。

女 2 いや、その件はもう……。

男 久恵ちゃん？

女 2 田中久恵でございます。

父 5 そこに小冊子あるんだけど、「福寿荘」って……その案内で来たんだよね。

女 2 お父様のご様子が心配でしたもので……あ、着替え終わりました。

父 5 一応、事態の説明したんだけどね……俺が若くなつたのが信じられない様子だったから、なら試してみるかい？ ってそんな流れでこうなちゃった訳なんだけど……まあ、いいや、えつと……久恵ちゃん、説明してよ。

女 2 これが以前、お話しましたパンフレットです。

男 (パンフに目を通す)

女 2 あ……いかがでしょう？

男 誰が入るの？

女 2 ですよ……ですから、もう。

父 5 ノルマがあるんだってさ、可愛そうに。

男 俺が入るかな。

女 2 は？

男 無理だよ……。

女 2 六十五歳以上となっておりますから。

父 5 契約書に判押してやれないかなあ、俺、本当は八十四歳なんだから。

男 何言つてんの、見たところ俺より若いじゃない、あんた。

父 5 その辺に転がつてるの代わりに放り込んでいてさ。

女 2 本当に、いいですから……。

父 5 ごめんな、俺がこんななつたばかりに。

女 2 そろそろ失礼いたします……あの、鈴木様……。

男 はい。

女 2 今回のことは会社には内密にお願いします……。

男 言いませんよ、もちろん。

父 5 帰っちゃうの？

女 2 一応、用件は終了しましたので。

父 5 ねえ、明日にでもまた会えないかな。

女 2 え？

父 5 うん、仕事じゃなく……。

女 2 いや、それは……。

父 5 駄目？ なあ、駄目かなあ。

女 2 追善供養の間はそのような行動は謹んでいただきませんと。

父 5 よく言うよ、あのような行動しといて。

女 2 アハッ……いや、大変申し訳ございませんでした。

父 5 俺さ、もうそんなに時間ないと思うんだ……四十九日も待つてられないからさ

あ。

女 2 そう言われましても……。

男 ちよつとしつこいぞ。

父 5 そろそろ次の俺が出番待ちしてると思うんだよ……たぶん。

男 ……。

父 5 俺、こう見えても二十歳の頃って真面目でさ……なんたって戦時中だったし、おまけに特攻隊免除の生き残り組だからいじめてたし……景子が初めての女だったの……だからたぶん久恵ちゃんと付き合おうなんて気、起こさないとと思うんだよ。

女 2 ……。

父 5 付き合ってる人、いるの？

女 2 いえ……。

父 5 だったらいいじゃない、別に……駄目？

女 2 ……明日は予定入っちゃってるんで明後日なら。

父 5 え？ ホントに？

女 2 はい。

父 5 約束だよ、どっか行こう……よし、三人で行こう。

男 俺も？

父 5 パーッとさ、ビヤホールとか。

女 2 あの、追善供養の間は……

父 5 じゃあ地味いいにさ、お寺で俳句^{ひう}繙^{ひろ}ったり。

男 いいよ、俺は。

父 5 どうせすることないんだろ？

男 ないこともないけど……

父 5 何があんの。

男 香典返しの名簿整理とか……しなきゃマズインですよ。

女 2 もちろんです……名簿貸していただければ金額にあったお品を私どもで手配いたしますが。

父 5 そうして貰おうよ、な……それまで頑張つてこのままの俺でいるから。

女 2 名簿のほうは……

男 その箱に。

女 2 ご請求は配送完了されましたから御連絡いたします、ありがとうございます
つ。

父 5 約束だからね、久恵ちゃん。

女 2 はい……失礼いたします。

女 2、名簿帳抱えてそそくさと帰る。

父 5 そうだ、理沙ちゃんも呼んで「モモクリーズ」初演奏会やっちゃおうかな。

父 5、父 4 からウクレレを奪うとまたベッドへ。

父 5 ……一番いい時期だよな、俺、今。

男 え？

父 5 なあ、あんたはどうだったの……三十くらいの時。

男 うん、良かった……と、思う。

父 5 美津子ちゃんと結婚した頃？

男 そうだね……

父 5 離婚しないほうがいいよ、なんとか粘つて……あれ？ 音ズレてるよ、これ。

と、チューニング。

男 予兆、あるの？

父 5 「ぬけがら」？ ……判ないんだ、俺にも…少し怖くなってきた……本当にこのまま赤ん坊まで遡ったらどうなるんだろうって……最後は誰かの腹に入っちゃうのかな。

男 そんな馬鹿な。

父 5 消えてなくなるのかな……ここで止まってくれないかな……そしたら、俺働くんだけどな、あんた仕事無くなったんだし、うん……俺が働いて面倒見るよ、父親だもんな。

男 いいよ、そんな。

父 5 二人でなんか会社始めたりさ、何でもやれそうな気がするんだ……何でもさ、だろ？

男 いや、俺は……うん……。

男、転がっている父達を真直ぐに直してやりながら。

男 俺、昨日の朝、蟬がぬけがら脱ぐとこ初めて見たんだ。

父 5 蟬？

男 見たことあるか？

父 5 いいや。

男 夜明け前、公園の中トボトボ歩いてたらさ……白いモノが地面にいるんだ。何だろうって見てみたら直径2センチくらいの穴があいててそこから這い出てるんだ、その白いモノが……ああ、これが蟬の幼虫かって、フツと気付いたら俺の周りにゾロゾロいるんだ……もう、本当にゾロゾロ……で、木に向かって一斉に這いずってる……俺、足がすくんじゃった。

父 5 うわっ、苦手なんだよ、その類。

男 いや……でもちよつと神秘的だったりもして……俺、その場でずつと見てたんだ……そのうちだんだん陽が昇ってきてさ……襟元で力サつてしたんで手当て

たら蟬の幼虫、見たら俺のズボンにビッシリ幼虫がしがみついている。

父 5 うへえ……(タオルケットに潜り込む)

男 仕方ないからそのままじっとしてたよ……丸一日。

父 5 ……

男 ハハハ、嘘だよ、ズボンにビッシリは……でもじっと見てたのは本当だ……背中が割れて蟬が出てきた……教育テレビで見たまんま……羽根がゆっくり伸びてしばらくしたらバタバタって飛んでった。

父 5 ……

男 ちよつと感動したんだよなあ……俺もぬけがら脱ぎたくなちゃった……あれ？

おい、出てこいよ……もう気味悪い話しないから……なあ、おい。

と、タオルケットがモソモソと……父5がベッドからズルリと落ちる。

男 ……あ。

タオルケットの中から父6が顔を出す。

父 6 こんな感じでしたか？

男 ああ……そんな感じ……

父 6 (首をコキコキ)……はじめまして、卓二郎です。

男 ……

父 6 なんだか身体がネバネバしてるなあ……

父6、短髪の二十代前半といった感じ。

父 6 すみません、着る物ありますか。

男 ああ……ちよつと待って……えつと、俺のでいいかな。

父 6 ありがとうございます。

男、自分の下着やら服やら持つてくる。

男 ふんどしとかは無いけど。

父 6 ふんどし？ ハハハ、そんなの水泳の時しか穿きませんよ。

男 ああ、そうだよね。

父 6 失礼しますっ。

父 6、素っ裸のままベッドから飛び出るとテキパキと服を着始める。

男 ハハ…ビックリしたなあ…しかし。

父 6 自分も驚きました、熟睡中にいきなり上官に叩き起こされた感じといえますか。

男 ……今、戦時中？

父 6 いえ…残念ながら日本は負けましたっ。

男 知ってるけど……なら戦後。

父 6 えーと…（記憶を探るように）…そうなんですけど…接吻映画…えっと
題名
タイトルなんだっけ…あれ、この間観たのになあ。

男 いや、いいよ…無理に思い出さなくて。

父 6 すみません、少し頭がボーツとして…。

父 6、「ぬけがら」達を見回す。

父 6 妙な感じだなあ、将来の自分が転がってる…この男（父 4）も自分なんです
よね。

男 うん、残念ながらね。

父 6 顔つきが穏やかだな、みんな。

男 そうかな。

父 6 生活が穏やかなんだな…卓也さんも穏やかだ。

男 俺？ 俺は穏やかじゃないよ。

父 6 自分の周りにはカストリ飲んで死ぬ奴なんかもいますから。

男 何だっけ、カストリって。

父 6 粗悪品の密造酒ですよ…（ベランダから外を見て）…人間、食い物が無くな
ると顔つきが違ってきますからね。

男 卓二郎君は…この呼び方も妙だけど…何か食べるかい。

父 6 いえ、おかまいなく。

冷蔵庫開けるが。

男 あれ……ごめん、ちょっと買ってこようか。

父 6 ヤミですか。

男 コンビニだよ、弁当か何か……理沙が香典置いてったよな。

父 6 本当におかまいなく、すきつ腹は慣れっこですから。

男 そう？

父 6 このあたりも空襲うけたんでしたっけ。

男 どうだろう……あ、でも下山公園に遺跡碑^聖みたいなのあったかな。

父 6 へえ、後で場所教えて下さい。

男 なんか、ドキドキするよ……ついこの前^前まで戦争してた人が目の前にいると思うと。

父 6 自分は内地勤務ですから……。

男 いやいや、それでも立派だと思っよ、今時の若い連中に比べたら、もう全然。

父 6 そうか、良かったなあ日本、ハハハ……うおおおおおおおつ。

男 ちよつとちよつと。

父 6 すいません、なんだか叫んでみたくなりました。

男 近所迷惑だから。

父 6 (頭かいて) ハハハ、そうですね、以後、気を付けます。

男 いやあ、いきなり好青年だなあ。

父 6 ……同じなのは空の色と蝉しぐれだけだあ。

と、玄関から女3が買い物袋下げて入ってくる。

女 3 ただいまあ。

男 ……。

父 6 あれ？ 景子さん。

女 3 やつと私に追いつきましたね……よいしょつと。

父 6 追いついたって？

女 3 私たちの出会った時に。

父 6 ああ、そうか……ハハハ、そういうことかあ。

男 ……

女 3 なにキョトンとしてるの、卓也……テーブルの上片付けて。

男 ……おふくろ？

女 3 早く、ご飯の支度するから。

男 あ……ああ……

父 6 そんな格好、誰だつてキョトンとするよ。

女 3 似合いませんか？

父 6 いや、似合つてるけど。

女 3 フフフ……

女 3、買ってきたモノを冷蔵庫に。

女 3 もお、冷蔵庫の中何も無いんだものお。

男 あんた……おふくろ？

女 3 面影、ない？

男 いや……なんとなく……え？ おふくろもぬけがらを？

女 3 脱いだ脱いだ、七十~~七~~年分そっくり脱いだ。

男 ……

女 3 あとは空の向こうに昇っていくだけ。

男 でも……死んだんだろ。

女 3 あんた、あの人の話聞いてなかったの？

男 あの人がって。

女 3 ほら、葬儀屋の……さっきここでイカガワシイ行為してた……何さんだっけ？

男 田中さん……ああ、中陰がどうのって。

女 3 冷麦でいいでしょー。

父 6 ご馳走だね。

女 3 だからね、まだしばらくはここにいろのよ。

男

……

女3、トントンとネギを刻む。

女3

美津子さんも呼ぶ？

男

え？

女3

って無理か……逃がした魚は大きいわよ、凄くいい子だったのに。

男

ああ……

女3

あの子、中学の時お母さん亡くしてるでしょ……だからかな、私にも良くしてくれてたのにね。

男

似てるんだよ、気丈なことか。

女3

そうなのよ、普通うまいかないんだけどね、性格の似た嫁と姑って。

父6

向こうが折れてたんだろ、(男に)彼女の気の強さは半端じゃないんです。

女3

そこに惚れて一緒になった癖に。

父6

違うよ、違う違う……(男に)運命だったんですよ、もう景子さんとの出会いは

男

奇跡と宿命……

女3

またその話？ もういいですよ。

男

その話って？

女3

墜落した話。

男

え……

女3

空の要塞B・29撃墜のため作られた戦闘機雷電はあ……って話。

父6

俺たち飛行将校の間では「馬鹿」って呼んでたんだ、B・29は図体ばかりでかい「馬鹿」ってね……快晴だった……まだ誰も乗ったことのない戦闘機、凄く角度で離陸するんですよ、ゴォォって。

男

足が出なくて落ちたって……

父6

あれ？ 景子さん話したの？

女3

話すハズないでしょ、私が。

男

この親父(父1)が酒飲む度に……チラッとだけ。

父6

そうそう、片方だけ(手で)こんな感じ……機体傾けて地面に影映したら右足

だけ出てなくって……もう胴体着陸するしかないから足引つ込めようとレバ上を引いたけどビクともしない……(手で)このままです……降りるに降りられないから飛行場の上を旋回してたんです、グルグルと……そのうちプロペラが空回り、燃料切れ……そのまま雷電は滑走路めがけて落ちていく……片足着陸……スピードあるうちはいいけどそのうち機体がバランス崩してドッカーン！

男
爆発？

父 6
しなかったんです、燃料がカラになってたのが幸いして……でもさすがに衝撃は凄まじく気が付いたらベッドの上、右目の視力が落ちちゃって飛行機に乗れなくなつてそのまま終戦……同期の奴らはみんな全軍捨て身の特攻隊ですから……

女 3
運が良かったのよ。

父 6
しばらくして故障の原因が判ったんです……報告書と共に准尉が持つてきてくれました。

男
何だったの。

父 6
ヘアピンです。

男
ヘアピン……

女 3
男子は兵隊、女子は工場。

父 6
生産過程で落つこちてレバーの奥に引っ掛かったらしいんです。

男
……

父 6
つまり、自分は女工さんのたつた一本のヘアピンに命救われたんです。

男、父4から渡されたヘアピンを取り出す。

父 6
ああ、それ美津子さんが落とした……

男
こんなので……奇跡だな。

女 3
偶然よ。

父 6
終戦後、少し落ち着いてからその工場に寄ってみました……空襲で工場は無くなつてましてね……ましてやその女工さんに会えるなんて思つてなかったですけど……

男

え、もしかしてそのヘアピン落としたのがおふくろ？

女 3

そんな訳ないじゃない、関係ない関係ない。

父 6

結局その人の事は何も……で、便所に行きたくなつて、たまたま飛び込んだあんみつ屋で働いてたのが景子さんでした。

女 3

かき氷注文したのよね、宇治金時の。

父 6

それからちよくちよく顔出すようになりまして。

女 3

映画に誘われたのよ、大阪志郎の「はたちの青春」。

父 6

あ、それだ、接吻映画。

女 3

もう、下心見え見え。

父 6

まいったなあ、ハハハ。

男

ちよつと待つて……アレ？ 宿命はどこ行っちゃった？

父 6

これこそ宿命ですよ、だってそのヘアピンの奇跡がなければたまたまあんみつ屋に入らなかった訳ですから。

女 3

そう言つて口説き落とされたのよ。

男

そういう話だったのか、雷電の顛末は。

父 6

ちようどこんな暑い日だったなあ。

女 3

うん、蟬がウワンウワン鳴いてたね……ウワンウワン……

男

……

女 3

だからね、あんたは偶然とたまたまが重なつて誕生したのよ。

父 6

奇跡と宿命と言つてくれ。

女 3

よし……出来たわよお！

大鍋いっぱいに大量な冷麦……どんぶりにてんこ盛りの葱。

男

おいおい、どうすんだよそんなに沢山。

と、「ぬけがら」達が一斉に動き出す。

男

……

父 2

おお、こりゃ旨そうだな。

父 4

そうか？ 焼肉が良かったなあ、俺は。

父 3 いいよ、冷麦で……腹にもたれる。
女 3 ちよつとどこ行くんです、こつちこつち。
父 1 ん？　そこで食べるんか。

と、父達は全員食卓を囲んだ。

父 達 いただきます。

女 3 はい、どうぞ。

父達は冷麦を食べ始める。

父 2 卓也、お前いらんのか。

男 え。

父 3 もたもたしてると無くなるぞ。

父 5 ちよつとそこの葱取つてくれないかな。

父 4 自分で取れよ。

父 5 自分だろ？　あんたは俺なんだから。

父 4 俺は俺だよ。

父 5 俺は俺だけど俺じゃないか。

父 3 だからやめろつて、その論議は。

女 3 はいはい、葱取ればいいんですよ。

父 2 卓也、いらんのかつて。

男 食べるよ、食べるけど……（輪に入れない）。

父 5 おい、お前いつぺんに取り過ぎだぞ。

父 6 若いですから。

父 5 年上の前じゃもう少し遠慮してたハズだけどな、俺は。

父 2 勘弁してやれ、配給生活なんだから。✕

父 3 おい、お前あんまり七味いれるな。

父 4 入れなきゃ旨くないだろ。

父 3 お前のせいで俺は胃に穴があいたんだぞ、少しは控えろ。

父 4 返せ、七味っ！

父 3 馬鹿野郎、誰が痛い思いすると思つてんだつ。

女 3 喧嘩しないの、食事中につ！

父 1 バナナないんかな。

女 3 ~~父~~ ちゃんと炭水化物取つて下さいつ。

父 2 見ろ、また母さんが怒つた。

父 3 こいつのせいなんだよ、女遊びするから角が生えたんだ。

父 4 おい、さつきから俺を目の仇にしてないか？

父 3 事実だろ。

父 4 女遊び始めたのはこいつだろ。

父 5 反動だね、こいつが真面目すぎたのがそもその元凶なんだ。

父 4 そりゃ言えてるな。

父 6 真面目のどこが悪いつ、誰が日本を守つたと思つてる。

父 2 守っちゃいないよ、負けたんだから。

父 5 おいおい、そりゃ禁句だよ。

父 6 誰だ、今侮辱したのは誰だつ！

父 2 俺だよ、あんな馬鹿な戦争はしなきゃ良かったんだ、犬死だ。

父 6 犬死だと……よくもそんな事を……。

父 2 お前も後四十年立てば判る。

父 6 いつから俺はそんな考えを持つに至つたんだ……くそつ。

父 4 俺からだな、たぶん。

父 3 日本無責任男だからな。

父 4 はい、ごくろーさん。

父 6 信じられない、俺の将来があんた達だなんて。

父 5 俺になるともう信じられるんだから不思議だよ。

父 3 だから七味入れるなつて、判んないのか。

父 4 景子、俺もう冷麦いいや、この俺うるさいから。

女 3 またそんな、残さず食べなさいよ。

父 2 ほつとけ、こいつには言つてもわからん。

父 4 ちよつと待てよ、俺つてそんなに駄目なヤツ？

父 2 今振り返るとそう思う。

父 3 俺が一番頑張ったんだ、ガキ抱えてさ。

父 5 一番は俺でしょう、結婚まで漕ぎ着けたんだから。

父 3 結婚なんて誰でも出来る、母さんと苦楽を共にしたのは俺だ、(男に) そうだよな。

男 え？ いや……どうなんだろ。

父 3 お前に すまん、振った俺が悪かった。
父 5 誰か そくだよ、いちいち振んなって。
父 4 誰かタバコ持ってない？

父 2 とつくの昔にやめてるよ。
父 4 あい、お前買ってきて来い。父 5 何で俺か。父 3 天からタコもやめよう。
女 3 いい加減にしなさい、とにかく食べるつ。

父 2 あ、出たっ！ 母さんの「とにかく」。

父 4・5・6 あ、出たっ！ 景子(さん)の「とにかく」。

父 1 (立つ) うるさいっ、うるさいっ、うるさいっ！

父 達 ……

女 3 死んでまで世話焼かせないで下さい。

父 達、黙って食べ始める。

男 ハハハ……

女 3 何が可笑しいの。

男 よくこれだけの親父とやってこれたもんだな……

女 3 好き放題やられました……

男 ……

女 3 でも終わって見たら、それで充分楽しかった……

男 ……

父 達、黙々と冷麦を啜っている。

女 3、その様子を微笑ましく懐かしむように見つめている。

男、その女 3 を見つめている。

男 ……おふくろ。

女 3 ……

男 ごめんな……

女 3 いいから、とにかく食べなさい。

男 ……

男、父達の間割り込んで猛然と食べ始める。

蝉の音が聞こえてくる。

暗転。

#7 四十九日目のこと

夕暮れ。

部屋の中には「ぬけがら」が転っている。

敷きっぱなしの布団、ウクレレもある。

そして……祭壇には「父」と「母」の遺影が並んでいる。

玄関のチャイム……

父 達 ……

二度目のチャイムが鳴って、女1が入ってきた。

女 1 ……

女1、消臭スプレー……飽き足らないのか直接父達にもスプレーする。

女 1 ……殺人現場。

女1、携帯をかける……部屋の隅で着信音。

女1 (舌打ち)

観念したかの様に待ちの態勢。
しばらく……。

ドアが勢いよく開いて男が入ってくる。

男 ハアハアハア……。

女1 なに、ジョギング？

男 ハアハアハア……(話しかけるな)

女1 へえ、あんたでも運動することあるんだ。

男 スウ……ハア……(深呼吸)

女1 いつまで出しっぱなしにしとく気なの……お父さん。

男、冷蔵庫から生卵5個と牛乳かき混ぜて一気飲み。

男 ングエ……フウ……。

女1 (唾然と見つめる)

男 なに。

女1 や……別に……どうい。

男 祭壇。

祭壇の上に離婚届け。

女1 押してないじゃない。

男 大丈夫、大丈夫。

女1 ……。

男、洗濯機を開けると中から父6が頭を出す。

女1 ちよつと……。

男 うへえ、忘れてた……あんまり臭うんで一昨日洗ったんだ、こいつ……ああ、タ

オルが絡んじまつてあぁ……(匂い嗅いで)ちえつ、洗い直しだな。

男、シャツを脱いで洗濯機に投げ込み、山になつて洗濯物からタオルを引つ張り出して汗を拭く。

女 1 なんか変わったね、あんた。

男 現在、改造中……改造人間。

女 1 つて言うか無理してる感じ。

男、仏壇の引き出しから印鑑、女1はバッグから朱肉。

女 1 どうして今日にしたの？

男 忌明けだ……親父が死んで四十九日。

女 1 あぁ……そうだったね。

男 ……

女 1 ほら……ここ。

男 ……

男、捺印。

男 ゴチャゴチャ言うな……。

女 1 え？

男 ……やかましい。

女 1 ……

男 ウワンウワン……ウワンウワン……まるで蟬みたいだ。

女 1 ……ちよつと、何言ってるの。

男、離婚届を女1に。

男 ほら。

女 1 確かに。

女1、祭壇の遺影を見つめて。

女 1 無理だったねえ、私たちは。

男 ああ。

女 1 どうだったの、お父さんの葬儀は。

男 親戚連中は迷惑そうだったな、おふくろの一週間後だったから。

女 1 そりゃ、さすがにね。

男 朝起きたらトイレで倒れてた……最初に倒れた時と同じように……八十四歳の親父がさ。

女 1 何だったんだろ、あの一週間の騒ぎは。

男 まだ終わっちゃあいないぞ。

女 1 え。

男 うるさいんだ、ブツブツ……こいつら。

女 1 やめてよ。

男、ビデオカメラを取り出して構える。

男 凄いだろ、コレ……VX2000、中古でも二十万。

女 1 買ったの？

男 田所に借りた。

女 1 なんだ……まあ、賠償金で首回らないもんね。

男 久しぶりだけど、いい感じだよ……学生時代とはモノが違うな。

女 1 何撮るの。

男、「ぬけがら」達にカメラを向ける。

男 超私的ドキュメンタリーエンターテインメント、タイトル「墜落男」。

女 1 何それ。

男 鈴木家の真実はSFXを越えた……出演する？（女1にカメラ向ける）

女 1 「爆弾娘」に依頼したら。

男 実家に越したらしいぞ、「爆弾娘」

女 1 そう。

男 うん、やっぱりいい表情してるな、さすがダンサー！

女 1 回してないよね、ちよつとやめてよお。

男 判った判った。

女 1 (呆れ顔で帰り支度)

男 今日もレッスン？

女 1 振り付け頼まれてる、イベントの。

男 へえ、いいね・・・いい調子だね。

女 1 そうでもないけど・・・そうかな。

男 今、俺、電器屋で仕事してるから。

女 1 そ、良かったじゃない。

男 うん。

女 1 じゃ、行くわ。

男 なあ、美津子・・・これ(封筒)。

女 1 ？

女 1、封筒を開けると中から・・・。

男 婚姻届。

女 1 ハハ・・・馬鹿じゃないの。

男 こいつらの息子だもん。

女 1 ...。

女 1、婚姻届で紙飛行機を作ると、飛ばした。

男 墜落。

女 1 着陸よ。

男 ...元気で。

女 1 ありがと・・・元気で・・・。

男 ああ。

女 1 ...。

女1、帰る。

男

...

男、落ちた紙飛行機にカメラを構える。

男

構成、監督、編集、音楽、鈴木卓也……主演、鈴木卓二郎……墜落した男が墜落した男に迫る狂気と真実のドラマ……タイトルは「墜落男」っ！

と、父達が立ち上がる。

男

...

男、父達にゆっくりカメラを向ける。

男

「至極ありふれた波乱万丈を生き抜いた墜落男」っ！

父 6

行きます、そろそろ時間が来たようなので。

男

「二人の男に奇跡と宿命を背負わせた墜落男」っ！

父 1

母さん、どこにおるんかな。

父 2

とつくに先に行つて待つてるよ。

男

「わめき散らす蟬のごとく傍若無人なその生き様」っ！

父 5

あんた、羨ましいよ、一番いい時だもんな。

男

「そして今、まさに天高く飛翔していくその勇姿」っ！

父 4

おい、早く行こうぜ。

男

「半世紀を共にした、偶然たまたま出会った女の元へ」っ！

父 3

じゃあな、卓也。

父達、玄関から去って行く。

男

「己の人生、八十四年分の「ぬけがら」を脱ぎ捨て……いざ、ゆかん……」

男、カメラを外すと祭壇の前へ……

男

…いざ、さらば。

男、お鈴を鳴らす。

男

…。

男、女1が飛ばした紙飛行機を拾い上げ、蛍光灯の紐にヘアピンとめる…紙飛行機を揺らす。

男

…これからだ…夏は終わった。

男、ベランダに出ると紅い空を見上げる。

部屋の中にヘアピンに引っ掛かった雷電がユラユラと飛び続けている。

完